

## 令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・漢字の読み書きは、学習効果測定の結果から、十分な定着が見られた。漢字の練習などの反復練習など学習の仕方が定着していれば集中して取り組めるからだと考えられる。
- ・文章の形式や書き方を指定することで、それに沿って文章を書くことができる児童が増えた。
- ・話題の中心や内容を捉えて聞き、聞き取ったことをメモすることができる児童が増えた。

#### (2) 課題

- ・課題に対する自分の意見や考えを、形式や書き方の指定なく自由に書くことができない児童が目立つ。特に高学年は、文章の構成を自分で考えて書くことを苦手とする児童が多い。
- ・高学年では、自分の意見やほかの人の意見の共通点や相違点を比べながら話を聞くことができず、話し合いを深めることが難しい児童が多かった。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	平均すると正答率は目標値を4ポイント上回ったが、書く領域の問題は項目によっては目標値を20ポイント以上下回ったものもあった。	/	/
第5学年	平均すると目標値と同程度の正答率だったが、書く項目は全国平均値を5ポイント下回った。	全ての項目で目標値を上回った。中でも、書く項目は目標値より7ポイント上回った。	/
第6学年	平均すると目標値と同程度の正答率だったが、書く項目は全国平均値を5ポイント下回った。	全ての項目で目標値を上回った。中でも、読む項目は目標値より11ポイント上回り、書く項目も上回った。	おおむね目標値を上回っているが、書く項目は目標値より6ポイント下回った。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値及び全国平均値よりも下回っている。特に全国平均値との差が大きく、基礎的・基本的な知識が不足しているようである。	目標値及び全国平均値を大きく下回る。基礎知識及び技能が未定着なため、その影響が顕著に表れたと思われる。	ほとんどの項目で全国平均値を下回っている。特に書くことに対する意欲の低さが顕著である。

## ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きや言葉の学習は、十分に児童に身に付いている。	文章の読み取りは十分身に付いている。一方で、文章を書いて表現する力は、目標値を大きく下回る。	自分の思いや考えを表現する問題だけ、正答率が低くなっている。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙を習得させるために、読書の時間を確保したり、国語辞典を活用したりする。</li> <li>自分で感じたことや考えたことを明確にし、順序立てて話せるように、事柄の中心をはっきりさせる。</li> <li>主語述語を対応させるために、一文を短く書く指導を繰り返す。また、自分の書いた文章を読み直し、推敲する習慣を付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くことができる児童が多いので、書いたものを交流して考えをより深められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで読書を行う児童を増やし、学習の中で獲得した語彙を生かせるようにする。物語の本を手取るように意識させる。</li> </ul>

### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新出、既習漢字の反復練習を行う。小テストを通して、漢字の書き取りの定着を図る。国語辞典や漢字辞典を活用して、語彙を習得させていく。	文章は主語、述語を対応させることを意識して書かせる。書く事柄を順序立てて書けるようにする。句読点や「」などの使い方を繰り返し指導する。	教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことのできる工夫を行っていく。

### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>論の展開や筆者の主張を読み取る指導を繰り返し、文章全体の構成や要旨をつかめるようにする。</li> <li>家庭学習では、一文字ずつではなく、熟語として覚えたり、自分の苦手なところを何度も繰り返したりするなど、個々にあった学習方法を取り入れていく。</li> <li>国語辞典を活用したり、すすんで読書をしたりして、優れた言葉や文に触れ、語彙力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えと、自分の考えを、比べながら聞き、より良い結論を出すために、建設的な話し合いになるよう意図的に働きかける。</li> <li>相手意識、目的意識をもたせ、伝えたいことと、その理由が明確になるように、文章構成を意識させて、書くように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことのできる工夫を行っていく。</li> <li>学年相応の図書を推薦したり、他教科での学習に関連する本を紹介したりするなどして、読書の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>

## 令和3年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・フラッシュカード等を使用することにより地図記号や都道府県に興味をもたせることができ、楽しく学習をすすめられた。
- ・資料から事実を読み取り、その事実から自分の考えを繰り返し書かせたり、発表させたりする練習を授業の中で取り入れた結果、事象の理由や自身の考察について、表現する力が付いてきている。

#### (2) 課題

- ・資料を比べたり、そこから分かることを考えたりする力が十分に定着できていない。
- ・他の地域や国との関わりを身近なものとしてとらえることができていない。
- ・話し合い活動等を通して、自分の意見をより多面的な意見に高めることができていない。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	全体としては目標値を1ポイント上回った。また、前年度より2ポイント上回った。	/	/
第5学年	全体としては目標値を1ポイント下回った。基礎・活用別では、基礎・活用ともに1ポイント下回った。	全体としては目標値を1ポイント上回った。基礎・活用別では、基礎は2ポイント上回り、活用は2ポイント下回った。 (第4学年時)	/
第6学年	全体としては目標値を5ポイント上回った。基礎・活用別では、基礎は3ポイント上回り、活用は1ポイント下回った。	全体としては目標値を7ポイント上回った。基礎・活用別では、基礎は7ポイント上回り、活用は5ポイント上回った。 (第5学年時)	全体としては目標値を1ポイント下回った。基礎・活用別では、ほぼ目標値と同じ数値であった。(第4学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値とほぼ同じ数値であった。	目標値より1ポイント下回った。	目標値とほぼ同じ数値であった。

##### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は、目標値とほぼ同じ数値であった。 6年生は、目標値より2ポイント上回った。	5年生は、目標値より3ポイント下回った。 6年生は、目標値より2ポイント上回った。	5年生は、目標値より1ポイント下回った。 6年生は、目標値より1ポイント下回った。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
副読本や地図帳、絵地図を様々な場面で活用する。また、自分で必要な情報を探し出せるよう指導していく。	資料からわかることを話し合ったり、ノートにまとめたりすることに力を入れる。また、単元のまとめ方を新聞だけでなく、パンフレットやすごろくなど多様な方法で行う。	校外学習や見学などの体験的活動をすることが望ましい。しかし、感染症対策の必要性を鑑みて、それに代わる方法（道具を貸してもらい、動画を撮影させてもらう）を考えていく。

#### （2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書や地図帳、資料集を様々な場面で活用する。また、調べたことを以前学習したこととつなげられるよう、印を付けておくようにさせる。	資料を比較・総合してわかったことを話し合ったり、ノートにまとめたりすることに力を入れる。また、学習したことをまとめる際に、教科書・地図帳・資料集などから自分の伝えたいことを表す資料を選べるように指導する。	他の地域や国との関わりを身近なものとしてとらえるために、オリンピックやニュースの話題を取り上げる。また、タブレットを活用してそれらについて調べる時間を設定する。

令和3年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 進度や指導方法について、その都度情報を交換し個々の児童の習熟についても確認することができた。
- ・ 個に応じた指導の時間を確保することができた。

(2) 課題

- ・ 少人数指導の展開の仕方についてさらに検討を重ね充実させていく。
- ・ コースごとの実態に応じた課題の設定を、さらに検討していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） △=上昇 ▼=下降

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	測定（長さ・重さ）▼ 図形△	図形▼他の領域△ 関心意欲が高い数値。 記述による回答が、区や 全国を大きく上回る。	
第5学年	数と計算（分数・小数） ▼	どの領域も区や全国を 上回る。観点別を見ても すべて上回る。	全体的に標準を下回る。  (第4学年時)
第6学年	数と計算（分数・小数） ▼ 変化と関係（割合）▼ 図形△	基礎基本▼観点別では、 すべての領域で▼特に 図形、数量関係が区や全 国を下回る。技能・関心 意欲も全国より下回る。	標準並み。  (第5学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的には目標値と同程度か上回っている。測定領域では区や全国と比較し低い数値を示している。重さや長さなどの量を実際に測定しているが、数値と手に持った時見た時の感覚が一致していないと考えられる。また、身の回りの量を自分の量の単位としてとらえたり実感したりすることができていない。	区や全国と比較して同程度か上回る結果を示している。しかし、記述による回答は下回っている。筋道を立てて考え、根拠を明確にして説明することが困難である。	前年同学年と比較してかなり下回っている。具体的な操作や作業、ペアやグループでの活動を適度に用いるなど、様々な学習方法を実践したり、教材教具を工夫したりすることで、自分なりに考えをもち粘り強く解決することができるようになりたい。

## ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>分数や小数の既習事項の理解が不十分である。性質や仕組みが整数と異なり、それぞれのよさを感じて学習できていない。既習事項に立ち戻った練習が必要。</p>	<p>問題場面を把握し、実際の生活場面を想起しながら問題と関連付けて解決したり、図や表に表して捉えたりすることが難しい。</p>	<p>算数の学習自体に困難さを感じている児童が多い。また、論理的に考え、解決に導くことが難しい。解決に用いる既習事項を引き出したり、筋道立てて考えをすすめたりして最後までたどり着くことができていない。</p>

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や半具体物を操作したり、絵や図に表したりして、身体と頭で問題解決ができるようにする。</li> <li>・ステップアップ学習で、学びの理解を確実にする。</li> <li>・既習事項を、日常の場面や他教科での学習に意図的に用いることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いて考えたりする場面を設定する。</li> <li>・計算の仕方や方法を児童が考え説明することを通して、思考力や判断力、表現力を高めることができるようにする。</li> <li>・児童が自分の考えを振り返ったり整理したりして、筋道を立てて考えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りをし、それを教師が評価し価値づけることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。</li> <li>・様々な教具を用いたり、学び方を工夫したりすることで、学ぶ楽しさを味わうことができる学習を展開する。</li> </ul>

### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や半具体物を操作したり、絵や図に表したりして、身体と頭で問題解決できるようにする。</li> <li>・身の回りのものから自分で選び何度も測定することで、量の感覚を身に付けるようにする。</li> <li>・ステップアップ学習で、学びの理解を確実にする。</li> <li>・既習事項を、日常生活の場面や他教科での学習に意図的に用いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項と関連付けて考えることで、見通しをもち解決をすすめる指導を展開していく。</li> <li>・自分の考えを説明したり、友達と検討したりする場を多く設定し、思考力や表現力を高め、理解を深めていく。</li> <li>・児童の発言に対し問い返しをすることで、自分の考えを振り返ったり整理したりして、理解を深めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースごとの実態に合わせた課題を設定したり、学習方法や教材を工夫したりする。</li> <li>・一人でじっくりと考える場を設定する。</li> <li>・どの既習事項を用いればよいか考えることができるようにする。</li> <li>・学習の振り返り（学習感想）をし、それを教師が評価し励ますことで、次時への意欲を喚起し学ぶ楽しさを味わうことができるようにする。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・単元ごとに前学年に立ち戻った練習をしたり既習事項（例：分数の通分約分と倍数約数など）と関連付けて考えたりする場を設定する。</li><li>・既習事項を、日常生活の場面や他教科での学習に、意図的に用いていく。</li><li>・ステップアップ学習で、学びの理解を確実にする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項を活用して課題を解決できるよう、見通しをもつ場を設定する。</li><li>・自分の考えを説明したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりするなど、目的に応じてペアやグループ活動を効果的に取り入れるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・コースごとの実態に合わせた課題を設定したり、学習方法や教材を工夫したりする。</li><li>・一人でじっくり考える場を設定する。</li><li>・どの既習事項を用いればよいか、考えることができるようにする。</li><li>・学習の振り返りをし、それを教師が価値づけることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。</li></ul>

## 令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 理科に対する興味・関心が高まった。
- ・ 自分の経験や既習事項をもとに予想を立てて実験に取り組む児童が増えた。

#### (2) 課題

- ・ 結果から考察し、結論を導き出すことが苦手である。
- ・ 自分の考えを表現するスキル（言葉、図など）が育っていない。
- ・ 植物との関わりが不足していることから、自然事象への関心及び知識理解が乏しい。
- ・ 実験・観察器具の扱い方が定着していない。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	平均正答率が目標値に達した。しかし、磁石の性質の項目は目標値より5ポイント下回った。	/	/
第5学年	平均正答率が目標値を上回った。天気と気温と電気のはたらきでは10ポイント以上目標値を上回ったが、雨水のゆくえでは、10ポイント以上下回った。	全ての項目で目標値を下回った。中でも植物の育ち方の項目は目標値より10ポイント下回った。	/
第6学年	平均正答率が目標値を4ポイント上回った。昨年度に続き、目標値を上回っている。項目別においても、目標値を大きく下回っている項目はない。	平均正答率が目標値を6ポイント下回った。電気の働きの項目は8ポイント下回った。	おおむね目標値を上回っているが、自然現象に関わる項目は4ポイント下回った。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平均正答率は目標値より1ポイント上回っていた。しかし、植物の育ち方と磁石の性質では、正答率が低かった。	平均正答率は目標値と同程度であった。光や磁石の性質、電気の通り道など、物質・エネルギーに関する単元で、正答率が低かった。	平均正答率は目標値と同程度であった。磁石の性質において、特に正答率が低かった。



② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は目標値より2ポイント上回っている。問題別に分析すると物のあたためり方の正答率が低い。 6年生は目標値を4ポイント上回っている。問題別に分析すると顕微鏡の使い方の正答率が低い。	5年生はわずかに目標値を上回った。問題別に分析すると雨水の行方と地面ようすの正答率が低い。 6年生は目標値より4ポイント上回っている。問題別に分析すると電流のはたらきの正答率が低い。	5年生はわずかに目標値を上回った。問題別に分析すると水のすがたの正答率が低い。 6年生は目標値を1ポイント上回っている。問題別に分析すると流れる水のはたらきの正答率が低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な昆虫や植物の観察を年間通して計画的に行うことで、生物の生育環境や体のつくりへの理解を深めていく。また、観察や実験をする機会を通し、理科の実験器具の使い方や自然事象などについて知識を深めていく。	実験の際に、事象についての予想を立て取り組むとともに、結果、考察を通し結論を導き出せるよう指導する。3年生は差異点や共通点を基に問題を見出すこと、4年生は既習内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想することに重点をおいて指導していく。	児童が様々な事象に関心をもち、意欲的に学習に取り組むために、実験や観察活動の充実を図る。観察・実験が難しい単元では映像や示範実験を通して理解を深めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験や観察を通し、知識や技能への理解を深める。活動が体験的に終わるのではなく、児童の知識となるように、問題解決の過程を意識した学習を行う。また理科の実験器具の使い方について、指導の中で適切な使い方を定着させる。	実験や観察の際、事象について予想をたて、実験に取り組む。実験結果から考察をする活動の際、十分な時間を確保する。問題解決の過程で用いる、5年生の「条件制御」や6年生の「多面的な考え」など「考え方」を整理し、結果を基に考察を考えさせていく。	既習の内容や生活体験を手掛かりに、実験や観察を取り入れることで、児童が主体的に問題解決に取り組む意欲をもたせる。児童の実態から、実験や観察が難しい単元を苦手とする傾向が見られるため、タブレットを使い、体験的な活動を取り入れた学習指導を行う。

## 令和3年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・一人一つの植木鉢で責任をもって植物を育てる経験は、意欲的に取り組むことができた。
- ・学級園で様々な植物を育て、生長の違いや変化に気付くことができた。
- ・1, 2年生で実施した学校探検は、児童にとって充実した活動となった。

#### (2) 課題

- ・学びを生かし、身近な人々、社会及び自然に、自ら働きかけようとする児童が少ない。
- ・ICT機器を導入した学習をすすめたが、十分に活用することはできなかった。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付けるようにする。</li><li>・地域や校内環境を十分に生かし、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・身近な人々、社会及び自然と関わる機会を多くつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。</li><li>・自分自身の生活について考え、表現できるように、適切な助言をする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるように、思いや願いをもって活動できるようにする。</li><li>・自分から働きかけたことによる満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、適切な課題設定をする。</li></ul>

## 令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・どの学年も音楽活動全般に意欲的に取り組んでいた。
- ・日頃の学習の成果をグループやクラス単位で発表することにより、音楽を創り上げる喜びや達成感、充実感を味わわせることができた。
- ・児童の実態に合った教材の設定や様々な学習形態を取り入れることで、個人の基礎的技能や鑑賞能力の定着を図ることができた。

#### (2) 課題

- ・器楽における技能の習得には、個人差がある。
- ・技能が定着していても、曲想にふさわしい豊かな音楽表現ができる児童は少なく、自信がもてない様子も見られる。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みやペア学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。</li> <li>・曲の感じや音楽の要素に気付けさせるために、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、また、既習事項との関連付けをさせることで知識の習得を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いをもつために、情景を想像したり楽曲の気分を感じ取ったりできるようにする。</li> <li>・曲や演奏の楽しさや美しさを味わって聴くために、身体の動きを取り入れる活動や、感じたことを言葉で表現することに慣れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。</li> <li>・友達と協働して音楽を創り上げる達成感や充実感を味わえるようにする。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みや、ペアやグループ学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。</p> <p>・曲の特徴や音楽の要素を理解させるために、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、また、既習事項との関連付けや対比をさせることで知識の習得を深める。</p>	<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつために、歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで表現に生かせるようにする。</p> <p>・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付かせ、その上で自分の考えや感じたことを身体や言葉で表現できるようにする。</p>	<p>・すすんで音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>・友達と協働して音楽を創り上げる達成感や充実感を味わえるようにする。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みや、ペアやグループ学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。</p> <p>・曲の雰囲気や特徴、音楽の要素を理解させるために、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、また、既習事項との関連付けや対比をさせることで知識の習得を深める。</p>	<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつために、歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで表現に生かせるようにする。</p> <p>・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付かせ、その上で自分の考えや感じたことを身体や言葉で表現できるようにする。</p>	<p>・主体的に音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>・友達と協働して音楽を創り上げる達成感や充実感を味わえるようにする。</p>

## 令和3年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・どの学年の児童も、意欲的に活動する児童が多い。
- ・様々な材料や表現方法を体験し、自分なりの表現方法を模索しながら選び取っている。
- ・友達の作品の良いところを見付けたり、良さを認め合ったりする様子が見られる。

#### (2) 課題

- ・美術作品などの鑑賞の機会が少なく、鑑賞活動に親しんだり、作品を深く鑑賞したりすることが難しい児童が全体的に多い。
- ・自分の表現に自信をもてない児童も数名見られる。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに気付き、表し方を工夫して表すことができるようにする。</li> <li>・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、十分に慣れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。</li> <li>・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。</li> <li>・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに分かり、表し方を工夫して表すことができるようにする。</li> <li>・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、適切に扱えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。</li> <li>・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。</li> <li>・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。</li> </ul>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、表し方を工夫して表すことができるようにする。</li> <li>・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。</li> <li>・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。</li> <li>・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品や美術作品のよさや美しさを認め合える時間を設定する。</li> </ul>

## 令和3年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・学んだことを実生活に生かす意識付けを行ったり、家庭と協力しながら課題を行ったりすることで、家庭での仕事に目を向けられるようになってきた。
- ・身近な課題を提示し、課題についてグループでの検討機会を設けることで、学習課題について主体的に考えるようになった。
- ・ICT機器を効果的に使用することで、手縫いやミシン縫いにおける技能を視覚的に捉えることができ、技能の習得につながった。

#### (2) 課題

- ・必要な知識や技能の習得に至るまでには、個人差がある。個に応じた指導を行う必要がある。
- ・学んだことを実生活に生かす意識付けを行ってきたが、自らすすんで生かそうとする意識はまだ薄い傾向にある。
- ・考えたことや思ったことを、分かりやすく表現する力がやや弱い傾向にある。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験、実習を通して、実感を伴って理解できるようにする。</li> <li>・既習の内容を関連付けて考えたり、それを活用したりしながら、必要となる知識や技能の確実な定着を図る。</li> <li>・基本的な技能は、ICTを活用し細かく捉えさせ、全体で意見を出し合いながら、適切な方法を見いだせるようにする。</li> <li>・中学校への系統性を考慮しながら、課題の設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた知識・技能を自分の生活に生かす工夫を考え、実践計画を立て、家庭生活において、自ら考え課題解決できるようにする。</li> <li>・課題解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合ったり、友達の意見をふまえて改善方法を考えたりする活動を日常的に行い、評価・改善する力や表現する力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な知識や技能を身に付けていく過程では、児童の実態に応じ、段階的に課題や題材を設定し、達成感が味わえるようにする。その経験を繰り返していくことで最後まで根気強く取り組もうとする態度を育てる。</li> <li>・主体的に実生活に生かせるよう、自ら課題を見いだし解決を図る活動や実践を振り返る活動を充実させる。</li> </ul>

## 令和3年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・体育を楽しんでいる児童が増えた。
- ・持久走大会の練習をすることにより、体力向上につながっている。
- ・運動の得意、不得意がはっきりしているが、不得意な児童でも参加し、活躍できるようルールを設定し工夫して行っている。そのため、ボール運動ではルールの工夫により、慣れ親しむ児童が増えた。
- ・コロナ禍で制限がある中で走・跳の種目に進んで取り組む児童が増えた。

#### (2) 課題

- ・取り組む運動が偏り、経験の足りない運動や遊びが多い。学年相応の体力や、運動能力がっていない児童が多い。休み時間や体育の学習でいろいろな動きを経験させていく必要がある。
- ・運動が得意な児童は意欲的に運動に取り組み、苦手な児童は積極的に取り組めず、運動能力の差が開いている。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・走の運動遊びでは、走る楽しさに触れ、走る動きを身に付けることができるように、いろいろな方向に走ったり、いろいろな間隔に並べられた低い障害物を越えたりできるように場を設定して取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び方を工夫して考え、考えたことを友達に伝えることができるようにする。</li> <li>・教員がタブレットで動画を撮り、課題解決のために学級全体で良いところや改善点を考え、伝えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びにすすんで取り組むことができるように、成功回数が多くなる簡単な運動遊びを取り入れたり、できたことを称賛したりする。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・走の運動では、走る楽しさや喜びに触れ、基本的な動きを身に付けられるように、いろいろな距離でのかけっこやいろいろな姿勢でのスタート等での運動に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の動きを見て課題を見つけ、正しい動きを身に付ける工夫を、友達と伝え合うことができるようにする。</li> <li>・児童がタブレットで動画を撮り、課題解決のためにグループで良いところや改善点を考え、友達に伝えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動にすすんで取り組むことができるように、ペアやグループを組み、友達の動きを真似できるような環境をつくる。また、自己の能力に適した場で取り組めるよう、いろいろな難易度の場を設定する。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・陸上運動では、正しい動きやルールを理解し、自己の記録の伸びや目標の達成を目指すことができるよう、いろいろな距離のリレーや、いろいろな高さのあるハードル等を設定して取り組ませる。</p>	<p>・自己や友達の課題を見付け、正しい動きを身に付けるために友達と交流したり、自分だけではなく、友達の考えたことも伝えたりできるようにする。</p> <p>・児童がタブレットで動画を撮り、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや課題を確認することができるようにする。</p>	<p>・運動に積極的に取り組むことができるように、運動の記録をとったり、わずかな変化を称賛したりして、自己の体の動きの高まりに気付かせる。また、自分たちで場や用具を考えさせて運動に取り組ませる。</p>



# 令和3年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

## 1 昨年度の外国語科授業における検証

### (1) 成果

- ・1 単位時間の流れを掲示することで、教師も児童も授業の見通しをもち、次の活動に対する児童の意欲を喚起することができた。
- ・外国語を使う必然性のある場面設定をしたので、児童が意欲的に外国語を使ってコミュニケーションをとる姿が多く見られるようになった。
- ・視覚教材の充実を図り、視覚支援を取り入れたことで、児童が概要を理解でき、児童同士でのコミュニケーションに役立った。

### (2) 課題

- ・外国語の授業を楽しむ児童が増えた一方で、苦手意識があり、積極的になれない児童も一定数いる。苦手意識をもつ児童への手だてを考えていく必要がある。

## 2 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項を関連させながら、文を考えたり、活用したりして、定着を図る。</li><li>・ゲームやチャンツ、歌などで繰り返し声を出すことで、新出語句に慣れ親しむことができるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英語表現の広がりをもたせるために、他教科と横断的なつながりをもたせつつ、単元計画を組み立てていく。</li><li>・子ども同士、子どもと教師、ALT と学級担任の学習中の関わり方について、学習内容と合わせた伝え方の工夫を考えていく。</li><li>・子どもの実態に合った学習の振り返りを考え、適切に表現できるようにする。</li><li>・コミュニケーションに必要な、他者を配慮する反応、リアクションは、一朝一夕でできるようになるものではないため、低学年から繰り返し指導していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英語を話す必然性をもたせるために、児童同士だけでなく、教室外で他教員へのインタビューをするなど、単元の中で様々な人とやり取りをする活動を取り入れる。</li><li>・単元のゴールの達成に向けて、1時間ごとにスモールステップで学習し、児童に「できた」という達成感を味わわせるようにする。その体験を繰り返すことで、次の授業への意欲につなげていく。</li></ul>